

26PA-pm382

N-phenyl-1-naphthylamine ラット 28 日間反復経口投与時の毒性

○田邊 思帆里¹, 大原 匡史², 伊藤 雅也², 野田 篤², 小林 克己¹, 松本 真理子¹, 広瀬 明彦¹ (国立医薬品食品衛生研、安全性試験研究セ、安全性予測評価,²生物科学安全研)

N-phenyl-1-naphthylamine の毒性を検討するため、SD ラットを用いて 28 日間反復経口投与試験を実施した。経口ゾンデを用いて 0, 4, 20, 100, 500 mg/kg/day の N-phenyl-1-naphthylamine を 28 日間投与し、その後 14 日間の休薬期間を設け観察した。赤血球数、血色素濃度、ヘマトクリット値及び平均赤血球血色素濃度の減少又は減少傾向、並びに網状赤血球数の増加が 500 mg/kg 投与群において観察された。血中尿素窒素及びナトリウム量の増加が 500 mg/kg 投与群（雄）で、血清総タンパク質、アルブミン、カルシウム量及びアルブミン・グロブリン比の増加が 500 mg/kg 投与群（雌）において観察された。100 mg/kg 投与群（雌）において脾臓の絶対/相対重量の増加が、500 mg/kg 投与群において肝臓の絶対/相対重量の増加が観察された。小葉中心性肝細胞肥大及び脾臓の髄外造血亢進が 100 及び 500 mg/kg 投与群において観察された。投与による変化は、回復期間において可塑性傾向を示した。以上の結果より、N-phenyl-1-naphthylamine の 28 日間反復経口投与における無影響量は 20 mg/kg/day と推察された。